

## 第7回連携訓練 脇町箇所・加茂第二箇所の堤防工事での合同訓練

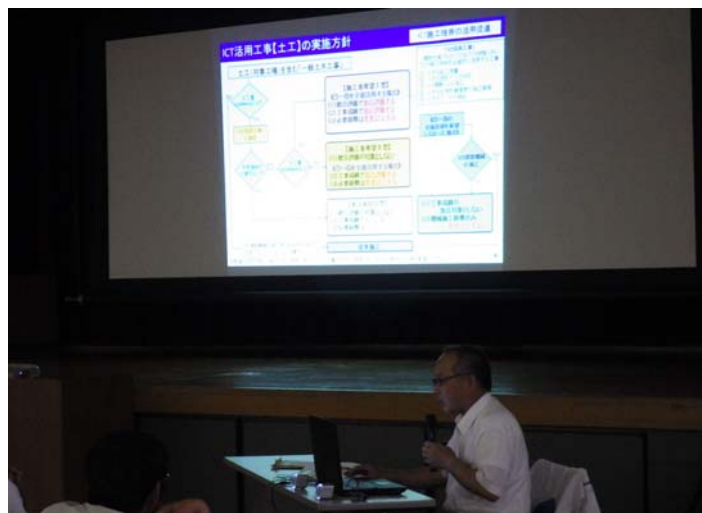
美馬郡脇町、及び三好郡東みよし町の堤防工事現場において、第7回の合同訓練を実施しました。  
(株)北岡組、(株)県西土木、(株)天野産業、(株)丸山組が加わり、連携会社は8社となりました。  
緊急支接受援訓練、炊き出し訓練、恒例の「なでしこパトロール」を行いました。



平成28年6月23日

## 第7回連携訓練 脇町箇所・加茂第二箇所の堤防工事での合同訓練

反省会は、「安全」「品質」「連携BCP」「女性雇用・環境」の4分科会で意見交換をしました。併せて、四国地方整備局の出前講座「工事現場における生産性の向上について」を実施しました。池田基準監督署伊坂所長様、徳島河川国道事務所松山工務第一課長様から、大変貴重な御講話を、拝聴しました。



平成28年6月23日

## 4分野の研究部会の設置について

「なでしこBC連携」における訓練は、1年を経過し参加者も増大しました。発足当初は、「現場や人の相互理解」を目標としてきましたが、今年度の訓練時には建設業が取り組むべき課題についての研鑽を、新たな取り組みとして展開します。訓練参加者で、各分野別に討論・意見交換を実施し、参加者のスキルアップを目指します。

### ■ BCP部会

単体及びBC連携におけるBCの実効性向上のための取り組み

### ■ 安全・環境部会

現場の安全管理の向上に向けた取り組み

現場の環境対策（騒音、振動、濁水等の対策）ならびにCO2削減等の取り組み

### ■ 技術部会

i-Construction 推進、工事現場の新技术活用のための取り組み

※四国地方整備局の出前講座を開催しました。

テーマ:「建設現場における生産性の向上について」

国土交通省においては、建設現場における生産性を向上させ、魅力ある建設現場を目指す新たな取り組みであるi-Constructionを進めることにより、このi-Constructionを推進するための取組状況等の説明を行いました。

### ■ 女性部会

現場作業環境の向上のための取り組み

女性雇用・若年者雇用推進のための取り組み



# 災害時 事業継続へ相互支援 県内外9社協定締結

徳島、岡山、和歌山 9社が23日、災害時に3県の建設会社など 燃料や資材を援助した



工事現場を点検する各社の女性社員—美馬市 脇町 拜原

各1社。災害時に1社で工事を行うのが難しい場合、燃料や資材を援助するほか、技術者を派遣する。そのめらを派遣する。そのめら製造販売会社は、現場付近で炊き出しをする。

県内の会社は、つるぎ町の井上組が始めた「なでしこパトロール」の取り組みで一部業者が連携してきた関係が基になっているため、名称を「なでしこBC(事業継続)協定」とした。

## 事業者継承へ 情報を一元化

にし阿波・連携協 部会設置

徳島県内のつるぎ、牟岐両町と鳴門、美馬、三好の3市の建設会社計6社とつるぎ町の半田そらめん製造販売会社1社、岡山、和歌山両県の建設会社



にし阿波圏域のビジネス創出などについて話し合った協議会総会—西部 県民局美馬庁舎

このほか2016年度事業では、大学生のフィールドワークを通じて地域の課題を発見し解決策を検討する。協議会の運営や事業に

### 市長の予

- ◆徳島・三好 午後とも庁内
- ◆鳴門 午後
- ◆市議会本会
- ◆小松島 午後
- ◆会定例会議決 午後、庁内協議
- ◆阿南 午前
- ◆阿波 午前
- ◆阿波 午前
- ◆美馬 午前

【紙面編集】

# ワイド とくしま

- 本社社会部 ☎088(655)7242
- 鳴門支局 ☎088(686)2691
- 松茂支局 ☎088(699)3707
- 小松島支局 ☎0885(32)0622
- 阿南支局 ☎0884(22)2101
- 石井支局 ☎088(674)0071
- 板野支局 ☎088(672)1458
- 阿波吉野川支局 ☎0883(24)2347
- 美馬支局 ☎0883(52)0151
- 三好支局 ☎0883(72)1235
- 那賀支局 ☎0884(62)1800
- 美波支局 ☎0884(77)1738
- 牟岐支局 ☎0884(72)0134

## 関 話 小 題

投票率アップにつながるだ 企画に当たっては、JCI内ら、若者に選挙を身近にしろ。7月10日投票の参でも「割り引き目当てで投票 もらおうと実施を決めた。院選で投票した人に対し、県懸念する意見も出たという。の7月31日まで特典が受けを割り引く「選挙割」。徳ただ国政、地方を問わず、投票率は低下傾向にある。参院意識が高まればと思う。新選から選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられることか

(河野大樹)

H28三好市池田  
維持業務(三好市池田  
町白地他)  
461万7千  
88万8千

▽指名競争・電子入札

★県東部農林水産局  
徳島▽  
7月14日開札

H28三好市測量設計業務  
(三好市)  
505万

▽指名競争・電子入札  
H28三好市測量設計業務  
瀬線三好市測量設計業

H28三好市測量設計業務  
(三好市)  
505万

589万  
▽指名競争・電子入札  
助任学童保育会館改築  
管工事(下助任町1丁  
目)  
776万

▽指名競争・電子入札

谷、三俣、高畑地内)  
8100万 国際  
8456万

●農林水産省四国土  
地改良調査管理  
(6月15日)

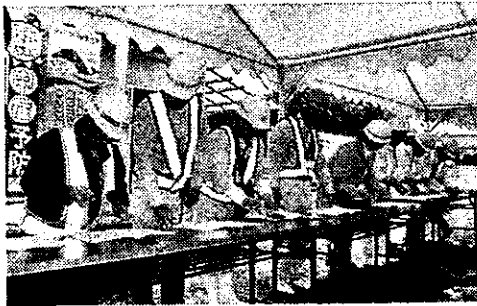
●林野庁四国森林管  
理局  
(6月21日)

▽加勝林道災害復旧工事  
(明許)(高知県安芸市  
加勝山国有林13林班)

# 地域ニュース

## 10社で連携 協定に調印

「なでしこ」BC連携グループは6月23日、支援協定業者を含め10社で連携協定調印式を行い、



調印する連携各社

女性社員が参加する「なでしこパトロール」を実施した。関係機関も含め、総勢70人、そのうち女性は18人が参加した。

災害時に各地域の業者が協力可能な範囲で互いに支援し、事業継続や災害に対応することを目的に当初2社でスタートした連携は、岡山県や和歌山県の業者も参加するなど、着実に広がりを見せている。

当日は、国交省徳島河川国道事務所発注の「脇町第一堤防工事」「平成27年度脇町堤防工事」「H27-28加茂堤防第二工事その1」「H27-28加茂第二堤防工事その2」を合同パトロールし、女性社員は職場環境・衛生面をチェックする「なで

しこパトロール」を行った。視察後にはBCP、安全・環境、技術、女性のそれぞれの分科会に分かれ意見交換会や国交省四国地方整備局による講演も実施。

最後に徳島河川国道事務所の松山芳土工務第一課長が総評として「新しい

取り組みとして各地域の業者間で連携すること



徳島県建設業協会三好支部青年部

## 新部会長に 古川智史氏

徳島県建設業協会三好支部青年部は6月24日、通常総会を開催し古川智史氏(古川建設)が新たに青年



部会長に就いた。

古川部会長(写真)は「個人の力は微々たるもの。皆の力が必要」と出席者に呼び掛け、「県民局との意見交換やボランティア活動などを通じ業界、そして地域に貢献したい」と抱

負を述べた。議事では、2015年度の収支決算や16年度の収支予算案のほか、9月16日に実施する四国へんろ道清掃活動や5月に実施した被災地・熊本でのボランティアに代表される独自の活動など16年度事業計画案を原案通り可決した。

## 県土木施工技士会

### 就業者不足は 大きな課題

徳島県土木施工管理技士会(五藤康人会長)は6月28日、徳島市内で2016年度定時総会を開催した。

五藤会長(写真)は、「土木施工管理技士は地域社会を守る大きな役割がある。しかし建設業界は、就業者数不足という大きな課題に直面している。高齢者

が多く若年層が少ないのが現状で、このままでは対応できなくなる可能性がある」と危機感を募らせ「地場産業として地域社会に貢献できるような知恵を出し合い乗り切りたい」とあいさつした。

議事では、15年度事業・収支決算報告や改正品確法の運用指針順守の要請、土木施工管理技士活用活動、CPDSの普及要請など各活動を盛り込んだ16年度事業計画案など、全ての議案を可決した。

## 徳島県土木施工管理技



徳島地区(徳) 2丁 2億 0円

この機会に

半整備審議会の基本問題  
 報告の大筋を固めた。  
 地下請負の判断基準見直  
 案を盛り込んだ。同委員  
 人になるとの予測も明  
 93万人の技能労働者が  
 を目指すべきだとして、  
 を進めるよう求めた。

許可・経営事項審査の手  
 続きを迅速化するほか、  
 廃業した企業の技術者を  
 受け入れる際に経審上の  
 特例措置を設けるなど、  
 建設企業の持続的な経営  
 環境を整備する必要性を

# 開始

## 追加受付

外企業は11月20日までの  
 受付で郵送可。

有効期間は建設企業が  
 17年3月31日まで、測量  
 ・建設コンサルタント等  
 17年3月31日まで

指摘した。

一方、国交省は、中間  
 報告の検討に伴い、中長  
 期的な技能労働者の確保  
 ・育成を図る前提となる  
 10年後の技能労働者数を  
 初めて試算。技能労働者  
 が堅調に推移した201  
 0～15年度の変化率が続  
 くと仮定しても、10年後  
 の技能労働者は44万人減  
 少し、286万人になる  
 とした。

その上で、建設市場の  
 規模に合わせた技能労働  
 者の不足数も試算。名目

私ホームページに掲載。

◇共同受付参加市町村  
 (▼は16年度の測量・建  
 設コンサルタント等業務  
 の定期受付からの参加自  
 治体)

- ▽徳島市▽鳴門市▽小
- 松島市▽吉野川市▽阿波
- 市▽美馬市▽三好市▽勝
- 浦町▽上勝町▽佐那河内
- 村▽石井町▽神山町▽那
- 賀丁▽石支丁▽美支丁▽

GDP成長率が1%台半  
 ばで推移した場合は93万  
 人、ほぼ横ばいの成長率  
 でも47万人が不足するこ  
 とになるという。



1書1上で示は 3.3  
 万人の技能労働者に相当  
 すると試算している。  
 中間報告は、他産業と  
 の人材獲得競争が厳しさ  
 を増す中、建設産業が人  
 の投資を柱に成長する  
 「人材投資成長産業」と  
 なるよう提言。具体的に

## なでしこパトロール実施

女性建設技術者らによる現場の安全パトロール  
 「なでしこパトロール」が23日、美馬市と東みよ  
 し町の河川堤防工事(国交省徳島河川国道工事事  
 務所発注)の現場で行われた。

災害時における協定を締結している岡山、和歌  
 山の業者含め10社が連携活動の一環として現場見  
 学を兼ねて実施。女性ならではの視点で「なで  
 しこ専用チェックシート」を手に現場を視察した。

## 阿波設計に委託

松茂町

津波避難タワー整備の設計

【松茂】松茂町は、旧吉  
 野川北部の中喜来地区に  
 9日までとしており、早  
 期の工事発注を目指して

作陽才加入交策、孝育訓  
 練の充実▽イメージアッ  
 プ戦略・先鋭的プロモ  
 ション▽生産性向上に向  
 けた人材の効率的活用の  
 推進▽の6分野で重点的  
 に施策を推進するよう求  
 めた。

このほか、重層下請構

ースを確保できる鉄骨造  
 (高さ5層以上)を見込  
 む。

建設地は中喜来字南洲  
 18ノ1ほか。当初予算に  
 工事費1億3000万円  
 を計上しており、年度末

# 電子版無料トライアル

不明確にたそい  
 題意識を提示  
 の、広範にわた  
 あるとして「こ  
 らなる検討を深  
 が必要」と記述  
 どめた。

# 雪の教訓 広域連携

いのちを守る

災害などが発生した場合の対応を企業や自治体が事前に決めておく事業継続計画(BCP)。南海トラフ巨大地震に備える徳島県では、異なる地域に立地する建設業者などが互いに支援をしあうBCPを策定し、その輪が県外にも広がっている。2014年12月に県西部を襲った大雪の際、個別のBCPでは対応しきれなかった地元建設会社の苦い経験がきっかけになった。【蒲原明佳、写真も】

吉野川の堤防建設現場性が集まった。「熱中症(徳島県東みよし町) 症になった場合、体を冷やせるものはありますか」。チェックリストを着た約15人の女



連携協定を結ぶ建設業者の勉強会に出席し、互いに理解を深める担当者ら。徳島県東みよし町の町役場で

## 震災特集

トを手にも、この現場を受け持つ井上組(同県つるぎ町)の担当者

次々と質問した。連携協定に参加した建設会社の女性従業員たちが、働きやすい職

場づくりを目指して各企業の現場を訪問していく「なでしこパトロール」だ。井上組専務の多田朝一さん(59)は「互いに現場を見れば勉強になるし、技術力や社風もわかる」と説明する。従業員同士が顔見知りになることで、いざという時の連携を円滑にする狙いも込められている。

従業員約60人の井上組は、堤防建設や道路工事など地域の公共工事を中心に請け負う。10年に初めてBCPを作成し、従業員の安否確認や対策本部を設置する手順、優先する業務を規定した。しかし実際に災害が起き、企業個別のBCPの限界が露呈した。

14年12月の豪雪。県西部の山間部では、道路脇の木が電線を絡めて相次いで倒れた。広範囲で停電し、井上組の事務所があるつるぎ町を含め3市町で最大約870世帯が孤立した。国や県、市町から道路の除雪などの要請が殺到したが、全体の被災状況がつかえず、社内は混乱した。町内では同月8日朝、1人暮らしの高齢女性が自宅で心肺停止で見つかり、後に死亡が確認された。繁忙期に手伝ってくれる作業員の母親だった。道路の復旧が進まず、夜明けから従業員が雪の中を歩いて安否確認に向かっていたが間に合わなかった。「経営規模が小さな一業者では太刀打ちできない」。井上組は翌年2月、災害時に資機材や燃料、人手を相互に支援する連携協定を県東部にある鳴門市の福井組と結んだ。福井組もBCPを作っていたが、災害時に支援しあう企業が県東部に集中しており、南海トラフ巨大地震などで全てが被災する恐れがあった。同年6月には、県南部の太平洋に面する牟岐町の大竹組も参加し、連携BCPが動き始めた。

「紙の協定だけでは終わらせない」と参加企業は、従業員同士の関係を築いている。緊急連絡訓練やなでしこパトロールの他にも、業界の動向に関する勉強会を開いたり、バーベキューを催したりして懇親を深めている。連携協定には、昨年は岡山県、今年に入ると和歌山県の建設業者も加わり、参加企業は計10社になった。「地域建設業は地域を守るもの。もう悔し涙を流さないよう日本中にくらしたネットワークが広がってほしい」と語った。

## 徳島 建設など10社で訓練

「経営規模が小さな一業者では太刀打ちできない」。井上組は翌年2月、災害時に資機材や燃料、人手を相互に支援する連携協定を県東部にある鳴門市の福井組と結んだ。福井組もBCPを作っていたが、災害時に支援しあう企業が県東部に集中しており、南海トラフ巨大地震などで全てが被災する恐れがあった。同年6月には、県南部の太平洋に面する

牟岐町の大竹組も参加し、連携BCPが動き始めた。「紙の協定だけでは終わらせない」と参加企業は、従業員同士の関係を築いている。緊急連絡訓練やなでしこパトロールの他にも、業界の動向に関する勉強会を開いたり、バーベキューを催したりして懇親を深めている。連携協定には、昨年は岡山県、今年に入ると和歌山県の建設業者も加わり、参加企業は計10社になった。「地域建設業は地域を守るもの。もう悔し涙を流さないよう日本中にくらしたネットワークが広がってほしい」と語った。